

瀉法の方法 各論 (浮実・弦実)

2012.1.18

学部作成

瀉法には、基本的瀉法と、邪の脉状に合わせた各論的とも言える瀉法とがある。

以下は、施術者が邪の脉状を把握できるものとし、邪の脉状に応じる手法を紹介する。

- 1 邪気実（病実）には、実邪と虚邪がある。これをさらにその手法により気と血に分けて考える。
- 2 「気は陽にして浅く積極的で変化しやすい。血は陰にして深く消極的で変化しにくい」という性質を考慮すること。
- 3 実邪で気のかさどりは浮実。実邪で血のかさどりは弦実である。
- 4 虚性の邪で気のかさどりは塵と枯。血のかさどりは堅である。
- 5 浮実・弦実には実邪に対する手法を、塵枯堅の虚性の邪には補中の瀉法を用いる。
- 6 補中の瀉法（塵枯堅）は、次回お知らせする。

浮実

*用鍼は、原則としてステンレスの1～2番。

- ① 経の流れに逆らって取穴し、押手を構える。
- ② 刺手は竜頭をある程度しっかり持ち、すみやかに2～3ミリ刺入し幅狭に抜き刺しする。
- ③ 抵抗が取れたら、押手でパーっとゆっくり下圧をかけ、鍼はおもむろに抜鍼する。
- ④ 鍼口は閉じない。

弦実

*用鍼は、原則としてステンレスの2～3番。

- 1 経の流れに逆らって取穴し、押手を構える。
- 2 刺手は竜頭をある程度しっかり持ち、すみやかに4～5ミリ刺入し幅広に抜き刺しする。
- 3 抵抗が取れたら、押手でパーっとゆっくり下圧をかけ、ゆっくり鍼を引きあげ、鍼先が鍼口を離れても尚、下圧をかけ続ける。
- 4 鍼口は閉じない。

